

三年生の各看護学実習の振り返り

老年看護学実習Ⅰ

初めての各論実習で、加齢変化を踏まえながら患者さんに必要な看護を考え、看護過程を展開していくのが大変だった。

老年看護学実習Ⅱ

退院後の生活を見据え、患者さんやご家族・介護者の希望を情報収集し、住み慣れた地域で、その人らしい生活ができるよう退院支援を行う大切さを学んだ。

成人看護学実習Ⅰ（セルフケア）

抱えている慢性疾患とともに生活を続けていくためには、患者さんに合ったセルフケアの方法と一緒に考えることが重要である。そして、患者さんの強みを活かし、継続できる方法の検討が大切であることを学んだ。

成人看護学実習Ⅱ（周手術期）

患者さんの術前の不安の軽減・術後の疼痛緩和に焦点を当て、早期離床を行うことが回復促進につながると学んだ。
また、術後の合併症を踏まえた観察や援助が大切であることを学んだ。

成人看護学実習Ⅲ（緩和ケア）

緩和ケア認定看護師のお話を聴かせて頂いた際に、「緩和ケアはどこにいても、誰にとっても必要である」とのことでした。緩和ケア病棟のみでなく、一般病棟にいる患者さんにも様々な苦痛は生じており、少しでも苦痛が緩和されるように患者さんを支えていくことが大切だと気づいた。

精神看護学実習

患者さんのペースでコミュニケーションを取り、思いの傾聴や、入院生活の中で楽しいと思ってもらえるよう紹介し、患者さんと信頼関係を築くことができた。

母性看護学実習

妊娠した時～産後まで、継続した関わりを行い、安心して生活できる環境作り、安心できる情報提供が重要なのだと学んだ。

小児看護学実習

子どもと一緒に遊ぶ中で信頼関係を築くこと、子どもは自分の意思をうまく言葉にできないため、子どもの思いを汲み取り、ひとりの人として尊重した関わりが大切だと学んだ。

在宅看護実習

在宅看護では、『ありのままのその人を見る』『普段の生活を知り・支える』ことがとても大切と学ぶことができた。
実習を通して、病棟実習のみではイメージできなかった患者さんの退院後の生活を見据えた看護を理解し想像できるようになった。



カリキュラムの変更に伴い、次年度より実習名称は変更となります